

まえがき

深澤広明 3

第I部 戦後教育と教育方法学

1 教育方法学研究における「戦後」教育実践 折出健二 12

- 1 教育方法学とはどういう学か 12
- 2 「戦後」の意味 13
- 3 教育実践を研究する要件 15
- 4 教育実践の思想的側面 18
- 5 結び 23

2 沖縄における平和教育実践の課題と展望

—「モノ」教材と「共感共苦」を生み出す教材の有効性— 山口剛史 25

- 1 はじめに 25
- 2 沖縄の平和教育の課題 25
- 3 課題を乗り越える教育実践を考える 28
- 4 沖縄戦学習における共感共苦を生み出す授業の実際 32

3 学校は「いじめ」問題にどう取り組んできたか

—いじめへの指導のこれまでとこれから— 田淵久美子 40

- 1 学校の教育実践における「いじめ」問題への取り組みをどう見るか
—課題研究の発表から— 40
- 2 実践を読み直す—1970年代後半から何が起こったのか— 44
- 3 発達の視点からいじめの問題状況を読み解く 47
- 4 これからの指導のあり方を考える—ゼロトレランスとの関連で— 50

4 戦後教育実践史における〈教育の生活課題化的構成〉の系譜
奥平康照 53

.....

- 1 子どもの生活の課題に応答する教育実践の構成 53
- 2 石田和男と恵那地域の教育実践
—「生活綴方の精神」をもって教育を立て直す— 56
- 3 高校女子生徒の生活現実に応答する吉田和子の実践 60
- 4 子どもの安心という課題に応える綴方実践
—なにわ作文の会と土佐いく子— 62
- 5 「教育の生活課題化的構成」の位置 64

第Ⅱ部 教育実践研究におけるエビデンスとは何か

1 教育実践研究における「事実」とは何か 藤江康彦 68

.....

- 1 はじめに 68
- 2 「事実」をめぐる言説 68
- 3 事実と解釈 70
- 4 「事実」の生成 72
- 5 おわりに 79

2 授業研究におけるエビデンスのつくり方
—国際交流の視点から— 的場正美 82

.....

- 1 エビデンスはどのような分脈で語られるか：授業研究への示唆 82
 - 2 教育学研究におけるエビデンスをめぐる論議 84
 - 3 授業研究の類型と文化依存度レベル 87
 - 4 授業研究において何がどのようにエビデンスになるのか 90
-

3 教育評価のエビデンスとしての実践記録

—近代自然科学的証拠と体験反省的明証性の間で—

遠藤貴広 96

- 1 日本の教育実践研究におけるエビデンスをめぐる諸相 96
- 2 実践記録を土台にした教育実践研究の展開 98
- 3 エビデンス概念の再定義 101
- 4 実践記録の科学性をめぐる 104
- 5 研究方法論の背後にある科学の認識論 106

4 特別支援教育の実践研究とエビデンス論

湯浅恭正 110

- 1 はじめに 110
- 2 特別支援教育でエビデンスが問われる背景 110
- 3 特別支援教育の実践研究・実証的研究をめぐる 112
- 4 エビデンスを意識した特別支援教育の実践研究に問われるテーマ群 113
- 5 実践の協働とエビデンス
—「エビデンスに基づく教育」から「実践に基づくエビデンス」へ— 118

5 教育方法学は教育実践をどのように語るのか

—詩的・物語様態の定性的データに基づく省察と叙述の可能性—

庄井良信 123

- 1 問題設定 123
 - 2 省察的実践の淵源と詩の言葉 125
 - 3 詩的多声楽による物語の紡ぎ合い 127
 - 4 結論 132
-

第Ⅲ部 教育方法学の研究動向

1 教育方法学における歴史研究の動向 富士原紀絵 138

- 1 歴史学の動向と教育方法学の歴史研究 138
- 2 新史料による実証研究の進展と史料の産出 140
- 3 日本の戦前の新教育の評価をめぐって 141
- 4 戦前・戦後の連続性と生活綴方の評価 144
- 5 教育方法学における歴史研究の意義 147

2 戦後教育実践に関する研究動向 川地亜弥子 150

- 1 はじめに 150
 - 2 通史的研究 151
 - 3 民間教育研究団体における教育実践—教育・保育と子どもの生活— 152
 - 4 教科教育を中心とした研究 154
 - 5 障害児教育・特別支援教育 157
 - 6 おわりに 158
-